

令和4年度(2022年度) 審判員の目標



1 『審判員の心得 10箇条』

→ コーチ・レフェリーシンポジウム2018 in 熊本

日本ハンドボール協会指導委員会 <https://youtu.be/HGXgn1k5Tzw>

2 『コンタクトプレーを正しく見極める』

→ 昨年度より継続

→ 強化・育成共通の理解



令和4年度（2022年度）
審判員の目標

コンタクトプレーを
正しく見極める

～モダンハンドボールの考え方から～



モダンハンドボール

近年のハンドボール競技の特徴

⇒ 激しいボディークンタクト
スピーディーなゲーム展開



リオ・オリンピック
以降、さらに強調

「ハードプレーとラフプレーの見極め」

＜世界基準…日本のプレーヤーが

国際大会で活躍するために＞

われわれレフェリーが、理解し、整理し、
解決していかなければならない課題



コンタクトプレーを正しく 見極めるために



「ハードプレーとラフプレーの見極め」

競技規則第8条「相手に対する動作」

⇒ 攻撃側、防御側の**双方**にあてはまる

<身体接触の際>

- ◆ 両者の**位置関係**
- ◆ 違反を受けたプレーヤーへの**影響**

競技規則 8 : 1 (a) ~ (c)



次の行為は許される

- (a) 他のプレイヤーの手からボールを取るために、**開いた片手**を使うこと
- (b) 相手の身体に接触し、そのまま相手の動きに合わせてついていくために、**曲げた腕**を使うこと
- (c) 位置取りをめぐり、相手をブロックするために**胴体**を使うこと

ハードプレーとラフプレーの見極め (防御プレイヤーの位置と防御行為)

防御行為の **ハードプレー** とは・・・

- ◆ 攻撃側プレイヤーの正面
- ◆ 競技規則 8 : 1 の状況 (例えば、曲げた腕)
- ◆ 相手の安全面を守る



接触の度合いが強かったとしても
ハードプレー として認める



良いディフェンスの例 (正面・曲げた腕・ボールに対してプレーする)

DFプレイヤーは、**曲げた腕**を使いながら、相手正面に入り、ついていっている。



オフエンシブファールの例 (先に位置を取る・正面)

DFはボールを持ったOFプレイヤーに対して、**先に正面に位置を取っている。**

レフェリーの判定は正しい。

オフエンシブファール。

相手チームのフリースロー。



正しいディフェンスの例

DFは相手に対して、正面からのコンタクトを試みている。決して罰則を適用してはならない。

ピボットも明らかな得点チャンスを得ているわけでもないので、OFチームの
フリースロー。

それ以外の判定はない。



ハードプレーとラフプレーの見極め (レフェリングの際の**ポイント**)

【 **大切な判断基準（事実判定の根拠）** 】

- ① **ボディークントロール**は？
- ② プレーヤーへの**影響**は？
- ③ **ボールに対するプレー**？

① ボディークントロール

⇒ シュートを打ち切ったかどうか **影響**は？

もしも、ボディークントロールを
失わずにプレーできているならば・・・

◆ ゲームの流れを重視

◆ 安易に競技を**中断**しない

7m スローの判定や
罰則の適用 などにより

モダンハンドボール（ハンドボールの**面白さ**）を表現する

② プレーヤーへの**影響**

どの罰則を適用するかについての判断基準（8：3）

- a) 違反行為をしたプレーヤーの **位置**
 - ・ 相手に対して、正面？側面？後方？
- b) 違反行為が対象とした **身体の部位**
 - ・ 胴体？シュートしている腕？脚？頭部？喉？首？
- c) 違反行為の **激しさの程度**
 - ・ 接触の強度は？相手の動きの速さは？
- d) 違反行為の **影響**



DFのコンタクトによる シューターへの影響を見極める

シューターは、最終的にDFのコンタクトなしにシュートを打ち切っている。

ゴールイン。

違反を受けたプレイヤーへの影響もないため、罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



視点

①DFの位置 ②OFの影響 ③シュートへの影響

DFは積極的に前へ動きながら
コンタクトを試みている。

決してオフエンシブファール
にしては**いけない**。

違反を受けたプレーヤーへの
影響もないため、罰則は**不要**。
ゴールイン。

シュートを外したとしても、
そのまま**継続**。



ピボットプレーの場合

ピボットがボールをキャッチした時、DFはピボットへのコンタクトを止めた。

そのため、ピボットは、ボディーコントロールを失わずにシュートを打ち切った。

ゴールイン。罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



③ ボールに対するプレー



防御プレイヤーの位置と防御行為

◆ ボールを対象としていない

◆ 不利な位置から接触をした

⇒ **ラフプレー** として判定

(競技規則 8 : 2、 8 : 3)

横から

後ろから



DFのコンタクト（正しい位置ではない） シューターへの影響

ボディーコントロールを失わずに、シュートを打ち切っている。

ゴールイン。罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



ただし、カテゴリーによっては影響がある

DFのコンタクト（正しい位置ではない） シューターへの影響

シューターへのコンタクトの影響はなく、ボディーコントロールを失わずにシュートを打ち切っている。

ゴールイン。罰則は不要。

シュートを外したとしても、そのまま継続。罰則も不要。



ただし、カテゴリーによっては影響がある

即座に2分間退場とすべき違反行為 (8:4)

- a) 衝撃の大きい違反行為や、高速で走っている相手に対する違反
- b) 相手を背後から捕まえ続けること、あるいは引き倒すこと
- c) 頭や喉、首に対する違反
- d) 胴体やボールを投げようとしている腕を激しく叩くこと
- e) 相手が身体のコントロールを失う行為をしようとすること
(例：ジャンプ中の相手の足/脚をつかむ。8:5aを参照)
- f) 高速でジャンプして、あるいは走って相手にぶつかること



開始直後でも、即座に2分間退場もありうる！

即座に2分間退場とすべき違反行為

試合開始直後であっても、後方からのプッシングには、**即座に2分間退場**を判定しなければならない（警告では不十分）。

シューターは明らかな得点チャンスを妨害されたため、**7mスロー**を判定する必要がある。



即座に2分間退場とすべき違反行為

相手を背後から捕まえ続けているため、**即座に2分間退場**とする。



即座に2分間退場とすべき違反行為

相手を背後から捕まえ続け、さらに引き倒したため、レフェリーは**即座に2分間退場**とすべきである。



コンタクトプレーを正しく 見極めるために



「ハードプレーとラフプレーの見極め」

ハンドボール ⇒ 戦いの競技
コンタクトの発生は必然的

<世界と戦うために>

ハードなコンタクトプレーが不可欠

これからのレフェリーの役割



◆世界の流れ

⇒ スピーディーなゲーム展開

◆競技規則 8 : 3 ⇒ **判断基準**

・・・ **影響を見極めて判定**

◆プレーを**正確に観察できる**位置取り

これからのレフェリーの役割 ～試合開始15分までに基準（許容範囲）を示す～

前半のうちに

インフォメーション

ボディランゲージ

段階的罰則

基準（許容範囲）
を伝えていく

⇒ 後半に罰則を適用する必要がないようにする
（もちろん**罰則を適用する準備**は必要）

これからのレフェリーの役割 ～一試合を通して～



60分の中で

起きた現象
プレーの質

良いプレーを保証し
悪いプレーを排除する

違反を受けたプレイヤーへの影響を見極め
罰則を適用するかどうかの判断をする

レフェリーの使命



チーム・プレイヤーは日々、トレーニングをしている。
レフェリーの使命は、

**安心・安全なゲーム運営
トレーニングの成果を存分に発揮させる**

ことである。この使命を果たすために、身体的、精神的、競技規則の理解、映像分析、 etc.

大会やゲームに臨むため、そして、大会期間中、ゲーム直前
…日々「準備」をしなければならない。



ハンドボールの発展のために 皆でトレーニングを積む

Team JAPANとして東京オリンピックの



ハードプレーとラフプレーを整理し
コンタクトプレーを正しく見極める



「パワーハンドボール」

追求と発展を共に求めていく